



No.55

発行所 〒146-0091
東京都大田区鵜の木2-39-1
東京中学校・東京高等学校同窓会
TEL03(3750)2635
発行人 三枝香容子
題字 竹沢四郎(昭16年卒)

創立150周年から新たな一歩へ

会長 昭和54年卒 三枝香容子



同窓会会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より同窓会活動の運営、発展のためにご理解ご協力頂きありがとうございます。

2023年は、コロナ禍で制限されていた社会生活もほぼ通常に戻りつつあり、同窓会でも4年ぶりに川崎日航ホテルの大きな会場で来賓、教職員、同窓生128名のご出席のもと第50回東京中学校・東京高等学校同窓会総会を開催することができました。

総会後の懇親会では、若い常任幹事の皆さんが中心となり、映像作りやアイデアを出し合い総会を盛り上げてくれました。

プロジェクターで校舎や生徒さんの様子を映したり、学校創立から現在までに創られた生徒の歌・校歌3曲が流れますと皆様各々の校歌を懐かしく聴き入っておられました。

今回残念ながら欠席とお返事を頂いた方々の中で、コメント欄に同期の方が何名出席なさっているのか知りたいとお声がいくつかありましたので大まかではありますが表にいたしま

した。

また9月にはいちよう祭が同じく4年ぶりに一般の方も来校できるようになり、同窓会も参加させて頂きました。

今回は150周年の流れを引き継ぎ、昔の木造校舎や周辺の様子の写真・記念誌等などをご覧いただけるように致しました。その他にも卒業生の営んでいる和菓子店にご協力いただき、どら焼き等にアレンジした校章のシールを付けて同窓会室に足を運んでくださった方にお土産としてお渡しいたしました。卒業生のみならず在校生のご家族や近隣の皆様も多く来場くださり、無事に終えることができました。

このように学校行事や生活も通常になりつつあり、同窓会活動もより一層活発化していきたいと思っております。

同窓生の皆様、教職員の皆様には引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後ではありますが、事情により2023年総会後に役員のご退任及び異動があり下表のメンバーで同窓会を運営しております。

総会出席者数(年代別)

出席者(卒年度)	出席者数
昭和25年～30年	6名
昭和31年～40年	2名
昭和41年～50年	2名
昭和51年～55年	12名
昭和56年～63年	11名
平成元年～20年	6名
平成21年～31年	6名
令和2年～5年	63名
出席者合計	108名

2023年度 常任幹事・顧問氏名

役職	氏名	卒業年度	備考
会長	三枝香容子	昭和54年	再任
副会長	佐藤達也	昭和52年	再任
副会長	松浦みき	昭和58年	再任
副会長兼会計	佐野清香	平成6年	新任
会計	清原克己	平成5年	再任
常任幹事	浦口欣久	昭和57年	再任
常任幹事	柳生みや乃	平成21年	再任
常任幹事	渡邊崇広	平成27年	再任
常任幹事	田口美紅	平成27年	再任
常任幹事	大橋薫	平成28年	再任
常任幹事	中村祐吾	平成28年	再任
常任幹事	金子実咲	平成29年	再任
会計監査	古寺博	昭和25年新制中学卒業	再任
会計監査	小野聡	昭和57年	新任

役職	氏名	卒業年度	備考
学内幹事長	松下浩志	平成11年	再任
学内幹事	和田洋輔	平成12年	再任
学内幹事	花田麻奈美	平成19年	再任
学内幹事	竹広美和	平成19年	再任
学内幹事	國次亮輔	平成20年	再任
顧問	河津章夫	昭和27年新制中学卒業	委嘱
顧問	矢澤秀一	昭和30年	委嘱
顧問	内藤顕二	昭和33年	委嘱
顧問	富田充保	昭和33年	委嘱

事務局

事務局	佐藤裕美子		
-----	-------	--	--

コロナパンデミック後の世界へ

理事長 上野 雅子



長かったコロナ感染症の影響で、私達は今迄にない禁欲的な生活を余儀なく強いられてきました。私達高齢者は、多少なりとも戦中戦後の悲惨で貧しかった生活を経験しておりますが、戦後生まれの人々にとっては、平和で豊かな暮らしを続けてきただけに、何とも窮屈な生活を強いられ、大変な経験をした事でしょう。

思えば、21世紀に入ってから、アメリカでのニューヨーク多発テロ事件、日本の東日本大震災、多くの国々での大水害、大規模な山火事、そしてコロナ感染症、近年では、ロシアとウクライナの戦争、イスラエルとハマスの戦争と、世界中が不穏な空気に包まれています。歴史は、百年周期で何かが起こるといのは風評ではなく現実味を帯びていて恐ろしい気がします。

又、IT技術の発展AI技術の高度化は、昭和時代に漫画の中で描かれていた事が現実の世界となり、どこ迄発展していくのか驚威すら感じます。CO₂の削減も何十年も前からいわれていますが、なかなか目標には達せず、原発廃止にしろ原油の使用削減にしろ実現には様々な問題がありそうです。電気自動車の開発などもそれぞれにいろいろな問題を抱えており、電気を供給するスタンドや、すぐに充電可能なのか、自動運転の場合、事故の責任は誰がとるのか等々。手放しで喜べるものではないでしょう。人間が作り出してきた物で完璧な物は無いという前提の元にそれらをうまく利用し、出来るだけ事故のないようにする知恵が必要になってくるでしょう。

又、ネット社会は、相手の顔を見る事なく、いろいろな形で接触する事が可能です。思わぬ形での犯罪は、この先も起こりうるものです。今迄の歴史の中で、多くの発明・発展は、人間の「善」を踏まえての事でしたが、それらを悪用する人間も必ず存在するという仮定で考えていく事も必要不可欠な事でしょう。原子爆弾しかり、携帯電話のサイトしかり、私達が使用する範囲を超えての

利用が出来、悪用する人間のいる事を常に頭におき、それらを拒否出来る仕組みを作っていかなければならない「たちごっこ」は、解決の無い人間の性なののでしょうか？

さらに、それらとは異なる次元で、日本の人口減少は、あらゆる業界の人手不足を招き、うまく仕事が回らなくなってしまっています。

サービス業界においては、ホテル、レストラン等の従業員不足によるサービスの低下、運送業の運転手不足による宅配遅延、観光地でのバスやタクシー運転手不足など、あらゆる所で人員不足がおこっています。又、教育界でも教師のなり手が減り、良い人材を見つけるのも大変は状況です。経営面においても子供達の減少は、即収入減に繋がりますので、どのように学校の魅力をアピールし、どれだけの保護者や中学生がこの学校に入学したいと思ってくれるか等、学校の特別化が今後の経営の基盤になってくるでしょう。どんな時代になっても、若者を教え導き社会へ送り出す重要性はAIには出来ない血の通った人間の使命であり、なくてはならないものですので、その事をしっかり一人一人の先生方が胸に刻んで教師という職業に誇りを持って、人間育成に励まなければと思います。

この数年における閉鎖的な社会の中で、様々な出来事があり、いろいろな価値観、意見等考えなければならない問題が山積みで、この先若者達が、希望を持って生きていく世の中を作っていく責任の重さを以前よりずっと強く感じている今日この頃です。21世紀も早や4分の1が過ぎようとしている今、一日も早く戦争だけでも終息し、幼い子達や強い女性達が、安心して暮らせる国に戻ってくる事を祈らずにはられません。

学校PRの時代

東京高等学校長 鈴木 徹



本校は明治5（1872）年に家塾としてスタートし、昨年度、創立150周年の大きな節目を迎えたことは記憶に新しいところです。本校の沿革については、ここでは割愛いたしますが、長い歴史の中で今ほど学校の宣伝に注力しなければいけない時代もなかったのではないかと感じています。

以前は、学校のセールスポイントとして「進学実績」、進学率や進学先が重視されました。しかし、大学が企業にとって「役に立つ」ものでなければならない、と政府が考え始めたころから風向きが変わって来たのではないのでしょうか。唐突ですが「武蔵国府」がどこにあり、『竹取物語』の翁が何歳だろうと、どうでもいいことです。しかし、そこに拘るのが学問の醍醐味であり、また面白さなのだと思います。予備校が作った「GMARCH」とか「大東亜帝国」という括りについても「各校の伝統も個性も見えない」と批判される世の中になりました。我々も考え直す時期だと思っています。

もう一つの論点は「スポーツ強豪校」、特に野球に代表される甲子園大会への出場です。学校の中身はさておき、宣伝効果は抜群（時価換算数億円?）、知名度を上げるためには有効ではありますが、その弊害も「奨学生制度」をは

じめ巷間言われている通りなのだと思います。

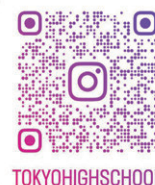
要するに問題は「進学」でも「スポーツ」でも、それが「学校目線・学校都合」のPRだということです。前振りが長くなりましたが、本校では今年度「学校PR委員会」という組織を立ち上げて、「生徒目線」で本校の良さをアピールし始めました。決して義務ではなく、自分たちが楽しみながら学校の今を発信していく。

例えば、月に1回スイーツを販売する^{*注1}、学校の説明会・見学会等のお手伝いをする、あるいはメディアとタイアップして学校宣伝をする^{*注2}等が活動内容です。

高校は大学への通過点ではありますが、通過の過程を楽しませたい、高校生活そのものを充実させたい、と我々教職員は常々考えています。明治草創期に、「新しい日本を担う、若者たちを育てる」目標で、スタートを切った上野塾は「多様化する世界の中で、若者を、数々の課題に解決をもたらす人材として育てあげる」ということを万代不易・永続的に継続せねばならないという、この姿勢を保つことは言うまでもありません。同窓会の皆様には日頃より多大なご協力を頂いておりますが、向後とも益々のご支援をお願いして結びとさせていただきます。

*注1 保護者会の日に合わせて実施し、生徒だけでなく保護者も対象に。5月～10月までは同窓生関連のお店とコラボしました。詳細は下段のQRコードから東京高校のInstagramをご覧ください。

*注2 夏休みには体育館でホラー映画の特別試写会を開催し、その様子がTV放映されました。協力「松竹ナビ」「TV東京」等



学校近況報告

副学校長 熊谷 文博



令和5年度は、403名の新入生を迎え、全校生徒1060名(男子532名<59.6%>女子428名<40.4%>)でスタートいたしました。以下学校の近況を報告致します。

【1学期】本年度は4月7日始業式からのスタートです。中間試験後に行われた体育祭は、天候にも恵まれ、爽やかな気候の下で実施されました。何よりもコロナ禍以来、久しぶりに保護者の皆様にお越しいただき、従前通りのスケジュールで行う本校らしい活気にあふれた体育祭が復活し、生徒たちの記憶にも残る体育祭となりました。

5月31日には、体育館にて、29の大学・短大と、9専門学校を招き、3年生対象の「進路説明会」を行いました。例年に比べ、休み時間での1・2年生の参加も多く、上級学校への進学に関する様々な情報を集める場として有意義な催しとなりました。

また、最近の東京高校では、生徒の皆さんに安心・安全な生活を送って貰うために、様々な講習を行っています。本年度は、SNS講習会・交通安全講習会・防災講習会(以上1年対象)・薬物乱用防止講習会(2年対象)・詐欺被害防止講習会(3年対象)・闇バイトに関する警察の講演(全学年)を行いました。

【2学期】例年通りの校外授業からスタートしました。1年生の4年ぶりになる1泊2日の宿泊行事は、千葉方面での「大山千枚田体験」「ジビエ体験」「無人島探索」「農業体験」「酪農体験」の5つのプログラムから選択して、貴重な作業や探索などを体験しました。2年生は、北海道・九州・沖縄の3方面に分かれ、3泊4日の修学旅行を実施しました。3方面とも天候に恵まれ、それぞれの地域で見聞を広めることが出来ました。3年生は各クラスで行先や活動内容を企画した日帰り旅行を実施、また10組は野外活動として富士登山を1泊2日の行程で実施しました。各クラスともに絆が深まり、高校最後の夏のよい思い出となったようです。

昨年からはまった1・2学年を対象とした芸術鑑賞会では2年生は劇団四季の『美女と野獣』を、1年生は歌舞伎『祇園祭礼信仰記 金閣寺』『土蜘蛛』『二条城の清正 淀川御座船の場』を観劇し、生徒たちの感性・教養を高める良い機会となりました。

9月23・24日には、「いちよう祭」が行われ、4年ぶりの来場者は2244名になりました。久しぶりに屋上・各種講演が解禁され、鶴の木町内の皆様とともに地域を盛り上げていきたいという願いと、自分たちもコロナ禍で失われた「青春」を取り戻したいという想いが熱く込められて大いに盛り上がり、笑顔あふれる文化祭になりました。

12月31日に行われた第74回NHK紅白歌合戦に、吹奏楽部とチアリーディング部が『緑黄色社会』とコラボレーションという形で出演し、年を締めくくりました。(詳しくは江原先生による別稿をご覧ください)

【3学期】1月1日の能登半島地震については大変に心を痛めております。一日も早い復興をお祈りいたします。3月5日には第132回の卒業式が挙行され、新たに306名の同窓生が誕生いたします。本稿執筆現在(2024年1月上旬現在)新型コロナウイルス・インフルエンザによる影響は、かなり減ったとはいえ、まだ終息の見通しがつきにくいという状況が続いております。同窓会の皆様にも、くれぐれもご自愛ください。また、皆様には日頃より多大なご支援ご協力を頂き、心より感謝いたしております。向後も益々のご支援を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

2023年度 東京高等学校 大学合格者数

大学・短大合格者数(総合型選抜・学校推薦型選抜)

大学名	人数	大学名	人数
青山学院大学	2	東京経済大学	2
亜細亜大学	2	東京工科大学	3
桜美林大学	2	東京工芸大学	1
神奈川大学	6	東京国際大学	1
神奈川工科大学	1	東京都市大学	8
金沢学院大学	1	東京農業大学	3
鎌倉女子大学	1	東京福祉大学	1
関東学院大学	6	東京保健医療専門職大学	1
北里大学	1	東京未来大学	1
杏林大学	1	東京理科大学	1
國學院大学	1	東洋大学	1
国際武道大学	1	新潟食料農業大学	2
国士舘大学	4	二松学舎大学	1
駒澤大学	4	日本大学	10
駒沢女子大学	2	日本赤十字看護大学	1
産業能率大学	1	日本体育大学	18
実践女子大学	1	文京学院大学	1
芝浦工業大学	1	法政大学	1
淑徳大学	1	武蔵野大学	1
城西国際大学	1	明海大学	1
湘南医療大学	1	明治学院大学	7
湘南工科大学	1	目白大学	3
昭和女子大学	5	ものづくり大学	1
昭和薬科大学	1	ヤマザキ動物看護大学	1
成城大学	1	立正大学	2
聖心女子大学	1	立命館アジア太平洋大学	1
専修大学	8	麗澤大学	1
洗足学園音楽大学	3	計	165
拓殖大学	2		
玉川大学	5		
中央大学	1		
帝京大学	6		
帝京科学大学	1		
帝京平成大学	5		
東海大学	5		
東京医療保健大学	4		

2023年12月現在

1月以降の合格者につきましては、学校ホームページでご覧になれます。

部活動報告

硬式野球部
春季東京都高等学校野球大会 本大会ベスト 64 秋季東京都高等学校野球大会 本大会ベスト 64
男子陸上部
東京都高等学校陸上競技対校選手権大会総合優勝 (22年連続38回目) 関東高等学校陸上競技選手権大会 男子総合優勝 13名入賞 全国高等学校総合体育大会 8名出場 男子ハンマー投げ第5位 東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会総合優勝 (39年連続40回目) 関東高等学校選抜新人陸上競技大会 16名出場 男子三段跳び第3位 男子110mH第6位 U18日本陸上競技選手権大会 3名出場 男子三段跳び第5位 国民体育大会東京都代表 2名出場 少年男子B110mJH優勝(大会新記録) 東京都高等学校駅伝競走大会第7位
女子陸上部
東京都高等学校陸上競技対校選手権大会総合優勝 (12年連続30回目) 関東高等学校陸上競技選手権大会総合第5位 9種目入賞 女子走り幅跳び優勝(大会新記録) 全国高等学校総合体育大会 12名出場 女子走り幅跳び第3位 女子七種競技第3位 女子円盤投げ第8位 東京都高等学校新人陸上競技対校選手権大会総合優勝 (11年連続30回目) 関東高等学校選抜新人陸上競技大会 14名出場 9種目入賞 女子100mH優勝(大会新記録) U18日本陸上競技選手権大会 2種目入賞 女子走り幅跳び第5位 女子円盤投げ第8位 国民体育大会東京都代表 1名出場 東京都高等学校駅伝競走大会第8位
ラグビー部
東京都春季大会ベスト4 第71回関東高等学校ラグビーフットボール大会Eブロック優勝 第10回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会東京都予選ベスト8 第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会東京都予選第一地区ベスト4
女子バレーボール部
春季大会兼関東大会予選ベスト16 東京都高等学校総合体育大会兼全国高等学校総合体育大会予選兼国民体育大会予選ベスト16(第9位) 全日本高等学校バレーボール選手権大会東京都一次予選ベスト16
女子硬式テニス部
第43回東京ジュニアテニス選手権18歳ダブルス優勝 第63回東京都高等学校テニス選手権大会ダブルス第5位、第6位 東京都高等学校テニス選手権大会団体第3位 第76回関東高等学校テニス大会団体ベスト16 2023関東ジュニアテニス選手権U18ダブルス優勝 第40回東京都ジュニアチームテニスチャンピオンシップ優勝 2023全日本ジュニアテニス選手権U18ダブルスベスト8 東京都新人テニス選手権シングルス第5位 ダブルス優勝 第3回新人団体戦第3位 関東選抜高校テニス大会出場決定戦第2位 第48回東京都私学大会団体優勝 全国私学大会東京都予選優勝
チアリーディング部
東京都高等学校総合体育大会第10回チアリーディング大会Aチーム第5位、Bチーム第12位 第25回 関東選手権大会 Division1 第14位、Division2A チーム規定演技第13位、自由演技第10位、Bチーム規定演技第14位、自由演技第10位 JAPAN CUP 2023日本選手権大会 第7位
女子バドミントン部
高校生オープン団体戦大会女子2部優勝、女子3・4部準優勝 新人戦I部大会(個人)出場 5回戦進出
吹奏楽部
第63回東京都高等学校吹奏楽コンクールA組銀賞
書道部
第39回読売書法展入選 第28回全日本高校大学生書道展 準優秀賞 第36回東京都高等学校文化連盟書道展 部活動功労賞
軽音楽部
第16回東京都高等学校軽音楽コンテスト優秀賞 第16回東京都高等学校対抗バンドフェスティバル優秀賞

同窓生の皆様、
後輩募集中です!

母校、東京高等学校は今年度創立151周年を迎えました。
母校では皆様の後輩(新入生)を募集しています。
勉学と部活動を3年間頑張れる後輩をご紹介します。

*下記の生徒募集要項は次年度の予定(今年度版に基づく未定版)です。詳細につきましては5月以降、学校にお問い合わせをお願いします。

東京高等学校 2025年度 生徒募集要項

区分	推薦入試	
	推薦Ⅰ	推薦Ⅱ
試験日	1月22日(水)	
開門・集合	7:40開門・8:30集合	
募集人員	120名	30名
試験科目	作文・面接	適性検査 (国語・数学・英語)・ 面接
出願方法	Web出願 (パソコン、スマートフォン、タブレット端末から可能)	

区分	一般入試		
	第一回	第二回	第三回
試験日	2月10日(月)	2月13日(木)	2月17日(月)
開門・集合	7:40開門 8:30集合	7:40開門 8:30集合	9:20開門 10:10集合
募集人員	125名	20名	5名
試験科目	国語・英語又は 数学・英語 面接	国語・数学・ 英語・理科・ 社会から1科目 面接	国語・数学・ 英語から1科目 面接
出願方法	Web出願 (パソコン、スマートフォン、タブレット端末から可能)		



令和5年度定年退職者



昭和60年乙丑

森友 雄一

本校に入職した昭和60年（乙丑）4月から、本年令和6年（甲辰）までの足掛け40年、私の在職期間は満39年で終了する。

初めて担任したのは2年生だったので、彼らは2号館の落成と同時に入学した昭和59年入学生で、その年は甲子年であった。

時の校長は石田博先生（先生の校長としての着任は前年で、その年度の卒業生父母が結成した卒業生父母組織に、干支の第1番であるという、極めて慶賀な意味合いを込めて「甲子会」と名付けた。）で、私は大学で先生にお世話になっていたというご縁があり、その折ちょうど公教育からは離れて塾の専任教員（会社員。係長！）として勤めていたこともあって、東京高校にお誘いいただいたのである。以来、国語科の教員として田沼道雄、渡瀬昭、野口和矩、兼岡俊司、伊藤詔一、鈴木徹各校長の下で今日に至る。

この間担任、副担任（教務部長・学年主任・総務部長などの任にあった時や、この4年間は学年付として複数クラスを担当した）として、また国語科の担当教員として、多くの生徒と接して来たので、あるいはこの同窓会報で、「あいつ、まだ生きていやがったか！」と思い出していただいているかも知れない。

「生きていやがった」私とは違い、本校でお世話になった先生方の中には既にこの世にない方もいる。校長では、石田博先生、田沼道雄先生（、上野幸一先生）。国語科では丸山和茂先生、平山郁夫先生、住崎誠壽先生、伊藤雄亮先生がそれぞれ何年か前に亡くなっている。同窓会報に、同窓生の訃報と並んで報じられていたのかもしれないが……。65歳なんて若造だと言いたいのだが、随分たくさんの人とお別れしているのだなあと実感する。

昭和60年にお隣のクラスの担任をしていた村井信幸先生（大東文化大学）も4年ほど前に亡くなった。そして、近年私にとって一層辛く思われたのは教員ではなく柴田夏男前会長の訃報であった。柴田さんと私とは同い年だったのだ。

暗い話をするつもりではなかったのだが、人の名前は思い出の扉を開く。私も「卒業生」となった。また、昔話に混ぜて欲しい。



退職にあたり

関根 秀樹

本年度をもちまして、2000年から24年間勤務した東京高等学校を退職いたします。

長い間お世話になりました。心より感謝申し上げます。

私は高校・大学の学生時代ラグビーに明け暮れ、そこで友の大切さを学び、ゼネコンに就職し、高速道路・宅地造成・マンション建設現場で監督に従事する事で建物の構造・電気設備等の施設点検に必要な知識を身に付ける事ができたと思っています。その後、機械製造業の会社経営をし、ここでは、まったく異なる職種の方々と知り合い交流をもつことができ、自分自身の社会感を広げることになったと考えます。これらの経験が本校の施設管理・設備の修理・補修などの仕事をして行く上で役にたてたと思っています。

また、東京高校では、数多くの生徒と出会い、そのひとりひとりの今後の人生において方向性・人間形成を決めて行く大切な時間に関わる責任感を再認識すると共に、私自身楽しくもあり、年齢に関係なく成長できたと思います。

震災・コロナを初めとし、私達が想像もできない程の多くの事が起き、社会環境も変化し、人間関係も希薄になってきたように感じますが、生徒と生徒・生徒と教師・生徒と私達のような、人と人が関わって互いに成長できる場である学校の重要性を改めて感じています。ひとつひとつの経験が人間をいくつになっても成長させてくれるのだと思います。

退職後は何をしようか、まだ具体的には決まっていますが、とりあえず旅行や趣味のバイクツーリング・レザークラフなど、自分のやりたい事に時間を費やして、充実した人生を送って行けたらいいなと思っています。

東京高校での経験は、私の人生の宝物だと思っています。理事長・校長を初めとする先生方、事務の方々、同僚達には、感謝いたします。ほんとうに長い間ありがとうございます。

第74回紅白歌合戦出場報告

チアリーディング部顧問 江原 貞光

2024年1月に行われる高校生大会に向けての練習が佳境になりつつある11月下旬、NHKより熊谷文博副校長のところに番組出演のオファーがあった。ディレクターが来校し話を聞いたところ、年末年始に行われる特番に吹奏楽部とともに出演してほしいというものであった。アーティストとともに演技演奏をしてほしいという内容で、番組名は「年末年始特番(仮称)」でアーティストもまだ決定していないが出場は可能かというものだった。いくつかの学校に当たっていて、まだ東京高校に決まったわけではないというあいまいな依頼であった。出演するテレビ局がNHKであり、この時点でも出演番組が紅白歌合戦ではないかとうっすらと想像できたこともあって快諾した。決定の連絡を受けディレクターが二度目に来校した時に、出演番組が紅白歌合戦で、アーティストが緑黄色社会であると知らされた。アーティスト名を聞いても寡聞にも私は知らない。調べてみると若者に人気のある四人組のグループである。しかし、ここからが大変であった。NHKのコンプライアンスにより、情報が段階的にしか公開できないというのだ。

まず初めに公開できるのは、収録日である。12月29日・30日にリハーサルを行い、31日に収録、元日に放送するという形で部員に伝えてほしいと要請された。番組名も言えず、ただNHKの年末年始特番特番とだけを伝え、参加を募るこ

とになった。12月28日に練習収めをし、年末年始にはすでに予定が入っている者もいた。中には親族で記念旅行をするという者もいたのである。続いてアーティストが緑黄色社会であることが、部員に限って公開された。まだ、出演番組名は非公開である。しかしこの辺りから部員の中に気が付くものが現れ始めた。曰く、31日に本番撮りをし、編集作業があるのに元日には公開できない。曰く、緑黄色社会は紅白歌合戦に出るのに、同じ日に違う番組の収録ができるはずがない。部員の問いかけに私は窮した。

とうとう情報公開の日がやってきた。12月20日である。第一体育館で吹奏楽部と合同で校内リハーサルをNHKと一緒にやる。ここに緑黄色社会がサプライズで来校し、紅白出場を伝えるというものである。薄々感じていた部員たちであったが、緑黄色社会を実際に目にし紅白出場を伝えられると歓声が上がった。29日にリハーサルが行われ、31日の本番となった。午前8時半にNHKホールに入り、再度のリハーサル、この後延々と控室で待機する部員たちだったが疲労感を訴えることなく午後7時50分の本番を迎えた。演技の失敗もなく終わったため、私の激しい鼓動も収まった。大晦日の出来事が終わった。

多くの方にご覧いただき感謝しております。改めてお礼を申し上げます。



その他メディアへの出演情報は、東京高等学校ホームページにてご確認ください。

下記QRコードもしくはURLより、ホームページメニューのニュース、東京高等学校校報へアクセスしてご覧ください！

【東京高校HP】

<https://tokyo-hs.jp>



【東京高校 校報ページ】

https://tokyo-hs.jp/?page_id=397

*こちらはパスワードで保護されています。
在校生、保護者の方、卒業生へ向けたページですので、取り扱いにはご注意ください。[tokyohs2635]



卒業後の転機

平成21年卒 柳生 みや乃



東京高等学校を卒業してから15年という歳月がたちました。

卒業してからは飲食の仕事につき、同窓会に在籍はしていましたが、曜日・昼夜関係なく仕事をこなしており、なかなか参加する機会を作ることができませんでした。

そんな中、全く違う仕事をしたいと考えるようになり、一度興味のあった書店の事に思い切って転職を致しました。書店での仕事が始めると、書籍の発注・接客・お客様からのお問合せ・書籍の棚のレイアウト管理など様々な仕事に携わることができました。働いた書店の中には同じ東京高校の卒業生と仕事をする機会もあり、とても貴重な機会に恵まれたと感じました。

書店員というと、皆さんのイメージでは穏やかでゆったりとした仕事といった印象があるかと思います。

ですが、実際に働いてみると書籍の運搬や品出しでかなり重労働もあり、繁忙期には忙しく動きまわることがとても多い職場です。書籍の問い合わせの中には様々な要望があり、お客様のニーズに応えられるよう日々ジャンルを問わず書籍に触れていくようにしておりました。

また、駅から近い書店では周辺の道案内をしたり、外国人観光客の方々とお話しする機会も多数あり、様々な経験を積むことができました。

収束してまいりましたが、コロナ禍では一定の期間は書籍に対する需要がとても増え、大きな変化はすぐには出ませんでした。緊急事態宣言やリモートワークなど様々な事が起因し、客数が減少傾向となり、書店でもなかなか難しい時期となっております。現在は少しずつ需要が戻ってきている反面、電子書籍の普及や以前のような形ではなかなか運営が難しい状態が書店業界でも続いております。

そういった状況の中、今後こういった形で仕事をしていくのかを考えるようになり、コロナ禍での経験や今まで培った書店での知識を生かしたいという思いと、飲食の仕事に戻るかまたは別の仕事に携わるかですと悩み続けておりました。

書店を辞めて転職活動を行う最中、同窓会に参加する機会があり、自身が在学していた時にいらっしゃった先生の中には定年された方もおり寂しく思う反面、現在も在籍

されている先生方とは在学中のお話しや、仕事のお話しを含め様々なお話しをさせていただきとても楽しい時間を過ごすことができました。

そのお話しの中で、こういった形で仕事をしたいのか、職種の相談などをさせていただき、自分の中でこうでなくてはいけないといった固定概念が生まれて居たり、仕事に対し整理できていなかった部分を認識することができました。様々なご助言をいただいたおかげで、現在ではビジネス書の出版社で営業として仕事に励んでいます。

今までの販売する側から提案する側となり、書籍作成の仕組みを知り、今まで書店員として培った視点に加え、営業としての自社商品のアピールなどを工夫し、書店員の皆さんとお仕事させていただくのはとても新鮮で、楽しく仕事をさせていただいております。

現在の職場に就職するきっかけとなった同窓会は、去年一昨年と参加させていただく機会に恵まれ、微力ながらお手伝いすることができ、とても嬉しく思っております。

同窓会に参加した際には、現在学生の方々ともお話しする機会もあり、現在の学生の現状やどんな事が今はやっているのかなどをヒアリングすることができ、価値観の違いや、これから需要が増えそうな事などを知ることができ、とてもありがたいと感じました。

学校の催事では、数年ぶりに文化祭の同窓会の展示のお手伝いをさせていただき、校舎の中を見学した際、自身が学生だった時とあまり変わっておらず、とても懐かしく感じました。東京高校に入学した際、現在の三号館が出来上がり初めて足を踏み入れた際はとてもわくわくしたのを覚えています。

また、懐かしく感じた部分だけでなく、現在の部活動や校則の変更、制服の変化など少しずつ現代に合わせた変化も見られ、新しい空気も感じる事もできました。

去年の紅白や1月半ばに放送されたバラエティ番組に東京高校が出てきた際はとても驚き、在学生の皆さんの活躍を実際に拝見できたこと、とても嬉しく思いました。

現在、多岐にわたり、様々なニュースや課題などございますが、皆様の繁栄とご活躍を一卒業生として心から願っております。

総会報告

平成5年卒 清原 克己

2023年6月17日(土) 第50回「上野塾 東京中学校・東京高等学校」同窓会総会及び懇親会を開催しました。



新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年からは、総会及び懇親会が中止になったり、総会のみを学校の会議室で行うなどで、同窓生の皆様と、昔話をする機会が無く残念な思いをしていましたが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、「5類」に引き下げられたことで、同窓会総会及び懇親会を開催する運びとなりました。

今回の会場は川崎日航ホテルです。このホテルは2020年に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の為中止に、翌年も、その翌年も中止に。3年連続でキャンセルしたのに、今回も快く引き受けていただき、ありがとうございます。

来賓の方々を始め、諸先生方、教育実習生、卒業生合わせて128名の皆様にお集まり頂きました。



総会の後の懇親会では、佐藤副会長の開会のことば、三枝会長挨拶と続き、創立150周年を記念して同窓会より寄贈させていただいた「校歴銘板」の目録贈呈。この銘板は、1号館1階ホールにありますので、東京高校に行く機会がありましたら見て下さい。

その後は、上野雅子理事長、酒井東京実業同窓会会長のご挨拶を賜り、熊谷副校長の学校の近況報告及び教職員紹介、その後は、待ちに待った乾杯です。3年待ちました。毎年乾杯できる事を願っています。

初めての試みで、東京高校の歴史や校歌などの動画を放映したのは、とても好評でした。懐かしい写真などを見ながら話が弾み、校歌は皆さんで大合唱。

楽しいときは時間が経つのが早いので、あっという間に閉会の時間です。

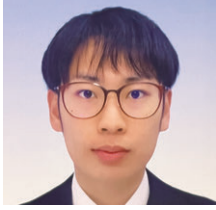


コロナ前までは毎年お会いしていた同窓生や初参加の同窓生、次回がその輪がもっと大きく広がる事を願います。

ちなみに平成5年卒業なのですが、同世代の同窓生の参加者が少ないようです。卒業して30年ほどがたち、いろいろ忙しいとは思いますが、東京高校で青春を過ごした皆様、年に一度昔話をしに参加してみませんか?もしかしたら、あの人に会えるかも・・・

お世話になった先生方や同窓生の皆様と2024年も変わらず楽しめる同窓会になるよう、盛り上げていきたいと思っておりますので、お気軽にご参加ください。

教育実習報告



令和2年卒 浦 舜太

私の教育実習は、手違いから始まりました。高等学校1種教員免許状のみの取得だったため、本来であれば実習期間は2週間でしたが、手違いで3週間の登録になっていました。何かの縁ということもあり、東京高等学校の先生方のご厚意で、特別に3週間行わせていただくことになりました。2週間では経験できなかったであろう貴重な経験ができたことに感謝しかありません。教育実習中は、1週目からたくさんの授業を担当させていただきました。初めは、授業というものを理解しておらず、教科書の内容をわかりやすく伝えることに焦点を置いていたのですが、指導教員である松下先生から、「授業は、教科書を教えるのではなく教科書で何を教えるのか、何を伝えたいのかが重要である」ことをご指導いただきました。ご指導をいただいからは、生徒に何を伝えたいのかを明確にし、伝えるためには教科書をどのように使えばいいのか、教科書では足りない部分はどこなのかを深く考えられるようになったことで、授業での生徒の反応が良くなり達成感を感じたことを今でも鮮明に覚えています。

教育実習を通して得た経験を糧にし、今後の人生を送っていききたいと思います。（岩手県立大学ソフトウェア情報学部・情報）



令和2年卒 藤田 愛幸

この度は、3週間にわたる東京高等学校での教育実習で大変お世話になりました。指導教諭の先生含め沢山の先生方のご指導の下、多くのことを学び経験することができました。ありがとうございました。私は今回、1年生と2年生の保健体育を担当させていただきました。そして、教師という立場に立って指導することは、私が高校生時には想像していなかった苦労が沢山ありました。初めは学校生活に慣れることに必死で生徒たちと関わる機会をあまり取れなかったのですが、日が経つごとに余裕をもって授業を進めていくことができると、生徒たちとも次第に関われるようになりました。体育では全員が取り組める内容はもちろんのこと安全面を第一で考え、保健では生徒たちにとって身近な知識を伝えられると良いとご指導をいただき、実践していきました。こうして、日々反省と授業実践を繰り返していく中で、出来るようになったことやこれからの課題として明らかになったことなど実習を通して様々な学びがありました。また、他の実習生たちとも助け合いながら乗り越えられた3週間でした。

（国士舘大学体育学部・保健体育）

『いちよう祭を終えて』

思う所は多々あるが、まずは同窓会として久しぶりに参加できた事を嬉しく思う。コロナ禍から様々な事が大きく変わってしまった状況の中で、変わらずそこにある学校という存在は大きいと感じる。

同窓会の展示内容に至っては、以前の続きという形ではなかったが、来場された方々には少なからずとも喜んで頂けたのではないだろうか。内容は総会の報告の他、東京高校の今昔(150年の歴史)について写真や記念誌を展示し、150周年の映像を流し、卒業記念品であるマグカップを並べ贈呈。更に時間を見て、吹奏楽部の演奏を聴きに行く…自分としても、いつも通りの感じが戻りつつあるのだが、その隣に無い事の淋しさも込み上げてきたりする。

少々昔の話をしよう。自分が同窓会の一員としていちよう祭に関わり始めたのは、前柴田会長の思いが強かった。『こういう設営にしたい』『〇〇な事をやりたい』という柴田さんの頭の中を形作るのが、自分の役割と思って動いていた。教室の掃除、設営、展示の内容、サブミッション等々、柴田さんからあふれ出る思いを受け取って形にしてきた。まだまだやりたい事があつたはずなのに、早すぎる旅立ちには心残りであろう。今回、卒業生のお店である和菓子屋『菓心 桔梗屋』さん(新丸子駅徒歩

3分)に会い、どら焼きを仕入れ、校章を記し来場された卒業生に配った。これこそ柴田さんの念願。

実現できた事を嬉しく思う。携わってくれたメンバーには心より感謝している。今後はこれを同窓会の

充実に繋げられる様、次のステップに移行していきたい。いちよう祭の前日、一人で準備するに至っても常に思いが纏わりついて、『夏男、これで良いのか…』と自問自答?しながら設営していた。当然ながら、近くに居たとしても言葉は読み取れず、『そうじゃない』と叱咤されていたかもしれない。(笑)最近になって、初めて夢に出てきた柴田さんに告げたのが『淋しいよ』の一言だった。これが本音なんだと、一年たったいま改めて実感した。

最後に、いちよう祭の出来栄はこれで良かったのか、喜んでくれているのか、自分自身では判断できない所である。答えを聞くにはまだ先の話になりそうだ。

昭和58年卒 松浦 みき



第51回「上野塾 東京中学校・東京高等学校」同窓会総会 及び 懇親会開催のご案内

2024年度同窓会総会及び懇親会を下記の通り開催いたします。

日 時 2024年6月15日（土）

総会・懇親会 13:00 ～ 16:00

場 所 東京高等学校 校内

詳細は別紙総会案内をご参照願います。

*本年度においてもコロナウイルス感染拡大及びその他の諸事情により、急遽中止させていただく場合もございます。また開催、非開催につきましては、学校 HP より同窓会欄内にてお知らせいたします。

2022年度会計報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

収入の部 (単位:円)

項目	決算額	予算額	備考
会費	3,060,000	3,070,000	新卒者10,000円×306名
総会会費	0	0	懇親会は中止
寄付金	10,000	0	総会寄付
預金利息	48	50	
雑収入	0	0	
基金より繰入	1,785,000	1,930,000	校歴銘板・150周年祝賀会
小計	4,855,048	5,000,050	
前年度繰越金	1,404,390	1,404,390	
合計	6,259,438	6,404,440	



創立150周年を記念して、2022年9月本校1号館1階ホールに新しい「校歴銘板」を寄贈させていただきました。

支出の部 (単位:円)

項目	決算額	予算額	備考
総会費	154,528	150,000	総会通知印刷・総会出席者お土産代
会報費	738,680	780,000	年1回発行・会報寄稿お礼
助成費	1,131,700	1,200,000	卒業記念品・部活動助成金
会議費	97,065	90,000	幹事会・委員会
通信費	917,845	910,000	会議通知・総会通知・会報郵送費等 携帯電話・買替手数料
	39,527	40,000	
渉外費	65,400	100,000	東実同窓会・謝恩会
特別行事費	1,785,000	1,930,000	校歴銘板作成・150周年祝賀会
事務費	19,151	40,000	事務用品等 システム保守費
	78,300	80,000	
事務委託費	726,479	710,000	事務職員給与
雑費	63,472	30,000	慶弔費・振込み手数料等
予備費	0	0	
小計	5,817,147	6,060,000	
次年度繰越	442,291	344,440	
合計	6,259,438	6,404,440	

資産残高 ¥8,877,849

2023年3月31日現在

(単位:円)

資産明細 金融機関名	繰越基金明細 定期・普通預貯金	一般会計 普通預貯金残高
芝信用金庫	3,248,017	105,945
三井住友銀行	4,000,000	336,334
三井住友銀行	1,187,541	0
ゆうちょ銀行	0	12
合計	8,435,558	442,291

新協議員のお知らせ

2024年3月卒業の新協議員をお知らせいたします。

伊東 禎喜

森村 直生

松田 涼花

宮川 麻

卒業記念品のデザイン 選考結果

今年度の卒業記念品(マグカップ)のデザインは次のように決定し、2学期終業式後に表彰状と副賞として図書券を贈呈いたしました。



皆さま、ご協力ありがとうございました。

☆優 秀 賞 (図書券10,000円)
3年 5組 高橋 花奈さん

☆会長特別賞 (図書券5,000円)
3年 7組 古本 千晴さん

☆佳 作 (図書券2,000円)
3年 4組 奥坊 明里さん
3年 6組 宮本 桃花さん
3年 7組 杉山 太祐さん
3年 9組 田中 希依さん
3年10組 村石 晴登さん

物 故 者

心よりご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

旧教職員	お名前	没 年
元教員	針原 孝之	令和 2年

卒業年度	お名前	没 年
昭和20年旧制中学	杉崎 幸男	平成30年
昭和31年	村石 信一	令和 5年
昭和62年	寺島 義明	令和 2年

令和5年から令和6年1月までにご連絡いただいた方です。

お詫び

昨年の同窓会報No.54の物故者でお知らせしました
昭和55年中村 正章氏ですが、正しくは中村 正幸氏でした。
謹んでお詫び申し上げます。

同窓会事務局のご案内

同窓会事務局の連絡先をご案内いたします。住所変更その他のご連絡は、事務局までお願いいたします。尚、事務局は週に3日程度出ております。不在の場合には、お手数ですが高校事務所へご連絡をお願いいたします。

住所 : 〒146-0091

東京都大田区鶴の木2-39-1 東京高等学校内

電話 : 090-4823-9337 (事務局直通)

: 03-3750-2635 (学校事務所)

e-mail : dosokai_tky@tokyo-hs.ac.jp

事務局 : 佐藤 裕美子

(火)(水)(金)出勤 (ただし、出勤曜日は変更になる場合がございます。)

*学校の休校日は、事務局も休みとなります。

編集後記

東京中学校・東京高等学同窓会
会員の皆さま、2024年をいかがお過
ごしでしょうか。

この度無事に同窓会報令和6年
3月No55を発行させて頂く事が出
来ました。これもひとえに皆さまの
ご協力のお陰と、会報編集委員一
同心より御礼申し上げます。

また、元旦に起きた、能登半島地震で被災された皆さまには心よりお見舞いと、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

近年世界各地で温暖化の影響により、大雪、猛暑の記録、暴風雨や洪水が増加しています。災害は忘れた頃にやってくる「備えあれば憂いなし」と言われる様に何か起こった時のために、普段からあらかじめ対策を立てて準備しておけば、いざというとき何も心配がないということです。今からでもご準備して頂ければ、と思います。

不安のニュースが多い中で、会報での同窓生、在校生の活躍ぶりパワー満ちあふれている事を知り、わたし自身も沢山のパワーを頂きました。

最後になりますが、今年の同窓会総会は、6月15日(土)学校校内で開催させて頂きます。是非多数の方々に参加して頂ける事を楽しみにしております。

昭和52年卒 佐藤 達也

東京中学校・東京高等学校同窓会 同窓会報編集委員会

発 行 日 2024年3月1日

編 集 東京高等学校同窓会 同窓会報編集委員会

発 刊 東京中学校・東京高等学校同窓会

発 行 人 三枝 香容子 (会長)

編 集 人 佐藤 達也 (副会長)

制 作 株式会社 日報